



## トランスコードの設定

Media Resource Manager (MRM; メディア リソース マネージャ) は、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内のトランスコードのリソース登録とリソース予約を行います。Cisco Unified Communications Manager は、Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント) とトランスコードの両方の登録、および 1 つのコール内で MTP とトランスコードの並行機能を同時にサポートしています。

2 つのデバイスが異なるコーデックを使用しており、普通には情報の交換ができない場合、Cisco Unified Communications Manager は、エンドポイント デバイスのためにトランスコードを起動します。トランスコードは、コールに挿入されると、2 つの異なるコーデック間で情報交換が可能になるように、そのコーデック間でデータ ストリームを変換します。

トランスコード制御プロセスは、データベース内で定義されているトランスコード デバイスごとに作成されます。各トランスコードは、初期化される時に MRM に登録されます。MRM はトランスコード リソースのトラッキングを行い、リソースが使用可能かどうかをクラスタ全体に通知します。

トランスコードを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [トランスコードの検索 \(P.69-2\)](#)
- [トランスコードの設定 \(P.69-3\)](#)
- [トランスコードのリセット \(P.69-6\)](#)
- [トランスコードの削除 \(P.69-7\)](#)
- [トランスコードの設定値 \(P.69-4\)](#)

## トランスコーダの検索

ネットワーク内にはいくつかのトランスコーダが存在することがあるので、Cisco Unified Communications Manager では、固有の条件を指定して、特定のトランスコーダを見つけることができます。トランスコーダを見つける手順は、次のとおりです。



**(注)** Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、トランスコーダの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、トランスコーダの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** [メディアリソース] > [トランスコーダ] の順に選択します。

[トランスコーダの検索と一覧表示 (Find and List Transcoders)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

**ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、**ステップ 3** に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リストボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リストボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



**(注)** 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

**ステップ 3** [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



**(注)** 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されたレコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.69-8 の「関連項目」を参照してください。

## トランスコーダの設定

トランスコーダを設定する手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** [メディアリソース] > [トランスコーダ] の順に選択します。

[トランスコーダの検索と一覧表示 (Find and List Transcoders)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のトランスコーダをコピーするには、該当するトランスコーダを見つけます (P.69-2 の「トランスコーダの検索」を参照)。次に、コピーするトランスコーダの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 新しいトランスコーダを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 既存のトランスコーダを更新するには、該当するトランスコーダを見つけます (P.69-2 の「トランスコーダの検索」を参照)。次に、**ステップ 3** に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 69-1 を参照)。

**ステップ 4** [保存] をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、設定したトランスコーダに対して固有の情報が状況を含めて表示されます。

#### 追加情報

P.69-8 の「関連項目」を参照してください。

## トランスコーダの設定値

表 69-1 では、トランスコーダの設定値について説明します。関連する手順については、P.69-8 の「関連項目」を参照してください。

表 69-1 トランスコーダの設定値

フィールド	説明
[トランスコーダタイプ (Transcoder Type)]	適切なトランスコーダ タイプを選択します。[Cisco Media Termination Point Hardware]、[Cisco IOS Media Termination Point]、[Cisco IOS Enhanced Media Termination Point]、または [Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)] のいずれかを選択してください。  これらのトランスコーダのタイプの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「トランスコーダ」を参照してください。
[説明]	説明（最大 50 文字）を入力するか、ブランクのままにします。ブランクのままにすると、指定した MAC アドレスまたはデバイス名から自動的に生成されます。
[デバイス名 (Device Name)]	このフィールドは、[Cisco IOS Media Termination Point]または[Cisco IOS Enhanced Media Termination Point]をトランスコーダのタイプとして選択した場合に表示されます。ゲートウェイのコマンドライン インターフェイス (CLI) で入力したトランスコーディングの同じ名前を入力します。
[トランスコーダ名]	[Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)] のトランスコーダの場合、この値は指定された MAC アドレスに基づいて入力されます。
[MAC アドレス (MAC Address)]	[Cisco Media Termination Point Hardware] または [Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)] の場合は、MAC アドレス (12 文字) を入力します。
[サブユニット]	[Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)] のトランスコーダの場合は、ドロップダウン リスト ボックスからサブユニットを選択します。
[デバイスプール (Device Pool)]	ドロップダウン リスト ボックスから、デバイスプールを選択します。選択したデバイスプールの詳細を表示するには、[詳細の表示] をクリックします。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	ドロップダウン リスト ボックスから、共通デバイス設定を選択します。選択した共通デバイス設定の詳細を表示するには、[詳細の表示] をクリックします。
[特別なロード情報 (Special Load Information)]	[特別なロード情報 (Special Load Information)] フィールドに特別なロード情報を入力するか、ブランクのままにしてデフォルトを使用します。文字、数字、ダッシュ、ドット (ピリオド)、および下線を指定できます。
[最大容量]	[Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)] のトランスコーダの場合、ドロップダウン リスト ボックスから最大容量を選択します。

表 69-1 トランスコーダの設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)]</b>	
(デバイスメーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p data-bbox="711 344 1471 488">[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] の下にあるモデル固有のフィールドは、デバイス メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p data-bbox="711 510 1471 654">フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 見出しの下にある「?」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p data-bbox="711 676 1471 741">詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

**追加情報**

P.69-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## トランスコードのリセット

トランスコードをリセットする手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** [メディアリソース] > [トランスコード] の順に選択します。
- ステップ 2** トランスコードのリストから、リセットするトランスコードを選択します。
- ウィンドウがリフレッシュされ、選択したトランスコードが表示されます。
- ステップ 3** [リセット] をクリックします。
- [デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** [リセット] を再度クリックします。
- 

### 追加情報

P.69-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## トランスコーダの削除

トランスコーダを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

メディア リソース グループに割り当てられているトランスコーダは、削除できません。トランスコーダを使用しているメディア リソース グループを検索するには、[トランスコーダの設定 (Transcoder Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」を参照してください。使用中のトランスコーダを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。現在使用されているトランスコーダを削除する前に、割り当てられているメディア リソース グループからトランスコーダを削除する必要があります。

### 手順

---

**ステップ 1** P.69-2 の「[トランスコーダの検索](#)」の手順を使用して、トランスコーダを見つけます。

**ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するトランスコーダを選択します。

ウィンドウがリフレッシュされ、選択したトランスコーダが表示されます。

**ステップ 3** [削除] をクリックします。

このトランスコーダを完全に削除しようとしていること、およびこの操作は取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

**ステップ 4** 続行するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、削除したトランスコーダが、トランスコーダ リストに表示されなくなります。

---

### 追加情報

P.69-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [トランスコードの検索 \(P.69-2\)](#)
- [トランスコードの設定 \(P.69-3\)](#)
- [トランスコードのリセット \(P.69-6\)](#)
- [トランスコードの削除 \(P.69-7\)](#)
- [トランスコードの設定値 \(P.69-4\)](#)
- [会議ブリッジの設定 \(P.64-1\)](#)
- [メディアターミネーションポイントの設定 \(P.65-1\)](#)
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「トランスコード」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「Cisco Unified Communications Manager の管理ページにおけるトランスコードのタイプ」